

牛1頭を寄贈した山崎さんに感謝状

市内小中学校の給食の具材として、市へ牛を1頭寄贈した和牛肥育農家山崎浩二さんに、3月29日、生徒児童と市から感謝状が贈られました。山崎さんは、たくさんの手作りの感謝状を手に「宝物にしたい」と話していました。



小林地区交通安全協会が反射タスキ寄贈

3月29日、小林地区交通安全協会が反射タスキを寄贈しました。同会の溝口誠二会長は「登下校時の事故防止に活用してほしい」とあいさつ。反射タスキは市内中学校の新一年生に配布されました。



県LPガス小林支部がコンロを寄贈

4月6日、宮崎県エルピーガス小林支部が市内3公民館へガスコンロを寄贈しました。贈呈式で兒玉龍之介支部長は「最先端のガスコンロを使ってもらい、ガスへの理解を深めてほしい」と話していました。



危険物安全協会が小学校へ下敷きを寄贈

4月6日、小林・西諸地区危険物安全協会が119番通報を啓発する下敷きを寄贈しました。兒玉龍之介会長は「子どもたちの安全教育に活用してほしい」とあいさつ。下敷きは市内小学校の新一年生に配布されました。



キャンペーンでシートベルト着用を啓発

4月6日、交通安全キャンペーンが北西方三本松で行われました。交通安全協会小林支部の主催で警察署や小林市ボランティア連絡協議会が参加。ドライバーにグッズなどを配布し交通安全を呼びかけました。



ドクターヘリが離着陸する場所付近では、一時的な騒音や強い風などが発生しますが、人命救助という役割へのご理解をお願いします

安全運行と現場の連携を確認 ドクターヘリ運航前想定訓練

3月28日、4月から運航が始まったドクターヘリの運航前訓練が三松小で行われました。交通事故を想定し、西諸広域消防が救助とドクヘリ要請を行い、患者をランデブーポイントの三松小へ搬送。要請後に宮崎大学医学部附属病院を飛び立ったヘリがわずか16分で到着し、医師による処置と患者収容が迅速に行われました。



新入生は22人。同日、小林西高衛生看護科にも入学し、今後2年間、小林西高に通いながら、病院で実習を行い知識と技術を学びます

看護の道を志し決意 小林准看護学校で入学式

4月10日、西諸医師会立小林准看護学校の入学式が行われました。内村大介校長が「学びの中で挫折もあるはず。失敗と向き合い、強く優しい看護師を目指して研鑽を積んでほしい」と祝辞。山口葉々子さんが新入生を代表し「悔いの残らないよう、学業と実習に努力します」と決意を述べました。

全国での上位入賞を目指せ 高校女子陸上の強豪校が合宿

3月23日から25日の3日間、九州の高校女子長距離強豪校が小林市で合同合宿を行いました。16の高校から選手やコーチなど120人が参加。23日の開講式では、小林高校女子駅伝部の小坂康弘監督が「昨年末の全国高校女子駅伝で初めて九州の高校が入賞を逃したことに危機感をもち練習してほしい」と激励しました。



「たくさんの人と交流し、走れる喜びを感じたい。駅伝王国九州の復活へ頑張ろう」と決意を語る小林高校女子駅伝部の黒木梨乃主将

地域で見守る優しいまちへ 徘徊見守りネットワーク構築

3月28日、認知症などによる徘徊高齢者の早期発見や見守り機能の強化を目的とした小林市徘徊見守りSOSネットワーク体制を確立する協定が締結されました。市と小林警察署、西諸広域行政事務組合消防本部の3者が調印し連携を確認。肥後市長は「認知症への理解が深まり安心して暮らせる地域にしたい」とあいさつしました。



行方不明があった場合は、協力関係者の携帯電話にメールで情報を配信し、早期発見・早期保護に役立ちます



清水さんは湧水インストラクターとして水資源保護の活動を行っており、多くのテレビ番組にも出演しています

小林市の水資源保護に活躍 清水洋一さんがMRT環境賞

3月20日、環境保全に取り組む個人や団体を表彰するMRT環境賞の表彰式があり、清水洋一さんが個人部門で優秀賞を受賞しました。清水さんは市内の湧水の場所や現状を調査し、美化活動を展開。受賞に「水資源が限りあることを市民の皆さんに知ってほしい」と話していました。



大会終了後は、完歩者を対象に市内特産品が当たる抽選会が開催されるなど、参加者はウォーキング後も楽しんでいました

春の観光地を歩いて周遊 3H20ウォーキング大会

3月20日、3H20ウォーキング大会が出の山公園・まきばの桜周辺でありました。市内外から約200人が参加し、出の山公園から牧場、霧島岑神社を巡る5キロと10キロのコースを歩き自然を満喫。特産品の完熟金柑やいちご、お茶などの振る舞いもあり、参加者はおいしそうにほお張っていました。